様式 C-19

科学研究費補助金研究成果報告書

平成２３年５月２４日現在

機関番号：１７１０２
研究種目：若手研究（B）
研究期間：2007～2010
課題番号：19730110
研究課題名（和文）　初期近代ブリテンにおける「統合」と「帝国」の政治思想史

研究課題名（英文）　Visions of Union and Empire in the Early Modern Britain

研究代表者
木村　俊道（KIMURA TOSHIMICHI）
九州大学・法学研究院・准教授
研究者番号：80305408

研究成果の概要（和文）：本研究においては、「初期近代」のブリテンにおける「統合」論と「帝国」論の系譜の発掘が試みられた。これにより、近年活発に議論されるようになった「帝国」概念の歴史的な変遷やその原義が考察されるとともに、スコットランドとの統合問題や植民地の拡大、アメリカの独立などの重要性、そして、20 世紀における「国民国家」とは異なる、多元的・複合的国家としての「ブリテン」を支えた思想的な基盤が明らかになった。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this research is to explore the traditions and political discourses on union and empire in the early modern Britain. It examined some aspects of this British problem, including conceptual change and original meaning of the contested term of ‘empire’, importance of some historical contexts (especially the union of England and Scotland, colonial expansion, and the independence of America), and ideological foundations of Britain as a multiple and composite state.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
２００７年度	900,000	0	900,000
２００８年度	800,000	240,000	1,040,000
２００９年度	700,000	210,000	910,000
２０１０年度	700,000	210,000	910,000
年度			
総　計	3,100,000	660,000	3,760,000

研究分野：西洋政治思想史
科研費の分科・細目：政治学・政治学
キーワード：ブリテン　統合、帝国、文明、人文主義

１．研究開始当初の背景

研究の当初においては、グローバル化やEUの拡大を契機として、従来の「国民国家」の見直しが進みつつあった。また、9.11のテロによって、「帝国」論への関心の高まりがかつてないほど見られるようになった。

ところが、従来の政治思想史研究においては、主権や抵抗といった「国内」問題に関心が集中し、「統合」や「帝国」といった「対外」的な諸問題に対する関心は希薄であった。

そのため、「国民国家」成立以前の初期近代の思想史の理解が不十分であっただけでなく、「帝国」の概念が歴史的な検証を欠いたまま用いられるなどの問題が生じていた。

２．研究の目的

本研究の目的は、以上の背景や問題関心を踏まえながら、初期近代ブリテンを対象として、同時代における「統合」と「帝国」の政治思想史を明らかにすることにある。

具体的には、1603 年の「王冠の統合」や1707年の「政治統合」を基点とするイングランド・スコットランド統合問題や、1776年のアメリカの独立に焦点をあてながら、初期近代における「ブリテン帝国」British Empireの設立・維持・拡大の過程を思想史的な観点から考察することにある。

３．研究の方法

本研究では、研究対象となる時代に応じて、作業の段階を３つのフェイズに区分した。すなわち、フェイズ①：1603年の「王冠の統合」以前、フェイズ②：1603年から1707年の「政治統合」まで、フェイズ③：1707年から1776年のアメリカ独立まで、である。

文献や資料については、国内および海外の図書館や、マイクロフィルム（Early English I, Early English II, Eighteenth Century）を通じて収集が進められた。さらに、近年刊行されたばかりの、『アメリカ革命に関するブリテンのパンフレット集』全8巻 *British Pamphlets on the American Revolution, 1763-1785*, 8 vols.,（ed.）, H. T. Dickinson（Pickering & Chatto, 2010）や、『アメリカ植民地とブリテン帝国』全8巻 *The American Colonies and the British Empire*, 8 vols.,（ed.）, Steven Sarson（Pickering & Chatto, 2010）などの資料集を活用した。

４．研究成果

20世紀的な「国民国家」を単位とした従来の政治思想史研究からは、「統合」や「帝国」の思想史は見逃されてきた。また、その一方で、ルネサンスから 18 世紀にかけての「ブリテン」史はこれまで、「内乱」や「革命」の時代として理解されてきた。

これに対して、本研究においては、初期近代ヨーロッパにおける「統合」論や「帝国」論の系譜を追跡するとともに、その重要性を明らかにすることができた。

とくに、初期近代のブリテンにおいては、ローマ帝国を模範とし、マキァヴェッリによって再生された人文主義的な帝国論の展開が見られた。また、1603年から1707年に至るスコットランドとの統合問題や、植民地の拡大とアメリカの独立は、それらの議論の発展に大きく寄与した。

たとえば、人文主義的な帝国論の継承という観点からは、フランシス・ベイコンのブリテン帝国論や植民論の展開が注目される。彼のエッセイ「王国と国家の真の偉大について」においては、具体的に、古代ローマの事例を題材としながら、外国人の帰化を認めることが「偉大さ」（greatness/grandezza）の

要件であることが指摘された。また、ベイコンも加わった 1603 年以降の統合問題をめぐる論争の諸相も明らかとなったが、なかでもジョン・スピードの『ブリテン帝国の劇場』においては、スコットランドやウェールズ、アイルランド、そして植民地を含む「グレート・ブリテン」像の１つの歴史的原型が示されている。

17 世紀中葉の「内乱」は、スコットランド軍の動向がその成否を握ったことや、クロムウェルによるアイルランド征服に見られるように、その裏面において、「統合」と「帝国」の問題が重要な背景をなしていた。このことは、たとえばジェイムズ・ハリントンの『オシアナ共和国』のなかに、いわゆる共和主義の原点となる議論に加えて、対外的な支配権（imperium）の問題が組み込まれていたことによく象徴されている。

また、18 世紀においては植民地の拡大とともに、ヨーロッパの内陸ではなく、海上の支配権を念頭に置いた帝国論が展開された。アーミテイジによれば、この時代のブリテン帝国論は「プロテスタント的、商業的、海事的、自由」という特徴を有していた。また、このような観点からは、たとえば海上交易が帝国の拡大に寄与することを指摘したニコラス・バーボンの『交易論』は見逃せない。

この時代の後半においてはさらに、アメリカの独立が大きな論争を惹起した。こうしたなか、たとえばエドマンド・バークは「帝国」の理念を称揚しながらも、「古来の国制」との調和の観点からアメリカの独立を支持した。また、アダム・スミスは『国富論』のなかで植民政策を批判したが、その末尾ではさらに、アメリカの放棄を訴えるに至ったのである。

ごく簡略的ではあるが、初期近代ブリテンにおいては、以上のような「統合」と「帝国」をめぐる思想史が展開されていた。それはまた、20 世紀的な「国民国家」とは異なる、「多元的」および「複合的」国家としての「ブリテン」の世界認識やアイデンティティーの形成に大きな影響を与えた。また、これと関連して次の研究課題となるであろう、同時代の「文明」（「野蛮」）観との関連、そして 19 世紀以降の「大英帝国」につながる思想的な系譜も見出すことができた。

以上の研究成果は、下記のなかでも、とくに古賀敬太編『政治概念の歴史的展開』第 4 巻（晃洋書房、2011 年 6 月刊行予定）所収の「帝国」に反映されている。この論文においてはまた、初期近代の統合論や帝国論が、より広く、ギリシアから現代に至る「帝国」論の系譜の中に位置づけられている。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔学会発表〕（計２件）

① 木村俊道、「「帝国」の系譜学－西洋政治思想史の観点から」九州大学政治研究会、2010 年 11 月 20 日、於九州大学

② 木村俊道「帝国」、政治概念の歴史的展開（第 4 巻）研究会、2010 年 9 月 10 日、於立命館大学琵琶湖リトリートセンター

〔図書〕（計３件）

① 木村俊道「帝国」、晃洋書房『政治概念の歴史的展開』第 4 巻、2011 年 6 月刊行予定

② 木村俊道、ミネルヴァ書房『文明の作法―初期近代イングランドにおける政治と社交』2010 年、x+273+50 頁

③ 岡崎晴輝・木村俊道編、ミネルヴァ書房『はじめて学ぶ政治学』2008 年、325 頁（木村「統治―マキァヴェッリ『君主論』」276-86 頁）。

〔その他〕

① 2007 年度（第 14 回）政治思想学会　研究会２「主権国家と帝国」討論者、2007 年 5 月 26 日、於明治学院大学

６．研究組織

(1)研究代表者

木村　俊道（KIMURA TOSHIMICHI）

九州大学・法学研究院・准教授

研究者番号：８０３０５４０８

(2)研究分担者

（　　）

研究者番号：

(3)連携研究者

（　　）

研究者番号：